

ESG/統合報告 Keyword vol.24

ESG、統合報告。新聞やメディアでよく目にするものの、専門的でよく分からない、という方も多いかもしれません。この分野に精通しているESG/統合報告研究室の研究員が、“いまさら聞きにくい” 初歩的なキーワードの説明とともにポイントを分かりやすく解説します。

1 ネイチャーポジティブ

生物多様性の損失を止め、今より豊かな状態、プラスの状態に反転させ、自然を回復軌道に乗せること。「自然再興」と訳される。

🔍 ココがポイント

地球上の生物の種が急激に絶滅していくなどのネガティブな現状を踏まえ、自然環境を守る・維持するという従来までの取り組みだけでなく、より豊かな自然の状態、ポジティブな状態にしていくという考え方は、2021年6月G7サミット（イギリス）で「2030年自然協約」が合意されたことで、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーに続く世界の潮流となりました。さらに翌年12月には、生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)において、ネイチャーポジティブのコンセプトが取り入れられた「昆明・モンテリオール生物多様性枠組(Kunming-Montreal Global Biodiversity Framework, 以下GBF)」が採択され、2030年までの新たな世界目標となっています。なお、GBFや国家戦略（2023年3月閣議決定の「生物多様性国家戦略2023-2030」）でビジネスに関係する言及があるだけでなく、TNFD提言の公表で投資家の関心も高まっていることから、ネイチャーポジティブに対する企業の役割への期待は高まっています。

2 Climate Action 100+

気候変動への対応を求めるエンゲージメントを推進する、国際的な投資家グループ主導のグローバルイニシアチブの1つ。

🔍 ココがポイント

Climate Action 100+はAIGCC(Asia Investor Group on Climate Change)がアジア、Ceresが北米、IIGCC(The Institutional Investors Group on Climate Change)がオセアニア、そしてIGCCC(Investors Group on Climate Change)が欧州と、4地域で別々に結成していた気候変動に対応するための機関投資家グループが2017年12月、地域の枠組みを超え、パリ協定の目標を達成するために発足したものです。

参加している投資家は①気候変動のリスクと機会について責任をもって監督するガバナンス体制の構築、②温室効果ガス削減のためのバリューチェーン全体でのアクション、③気候変動の影響についてTCFD提言をもとにした開示の強化を、投資先企業とのエンゲージメントを通じて要請しています。

ただし、米国では共和党が主体となって米国の独占禁止法における気候変動カルテルではないかという疑義がおこり、米国の資産運用会社の多くがこの2年間で本イニシアチブからの離脱を表明しています。

3 BEES

Biodiversity, ecosystems and ecosystem servicesの略。生物多様性・生態系・生態系サービスを指す。

ココがポイント

ここで言う「生物多様性・生態系・生態系サービス」はそれぞれ本質的に関連しています。Biodiversity（生物多様性）は、自然の基本特性である機能性、生産性、回復力を持つEcosystem（生態系）の健全性を表す指標となっており、Ecosystem services（生態系サービス）は、その生態系が地球上の生命全てを養うにあたり提供するサービスです。特に聞きなれない生態系サービスとは、気候調節、水などの資源の供給や受粉といった、いわゆる“自然の恵み”を意味します。

BEESはビジネスを含むすべての人間活動を支えていると同時に、その維持・保全・回復は人間次第です。加えて、その変化は企業のリスクと機会に影響を与える可能性が高く、また、BEESに関する研究活動は急速に進んでいます。このことから、ISSBは人的資本と並んで優先課題として扱っており、投資家の関心が高まっています。

4 インパクト投資

企業や資産、組織に対し、測定可能な社会的または環境的影響をもたらすことを意図して行われ、同時に財務リターンも期待される投資。

ココがポイント

インパクト投資においては、①企業自らの能力（リソース）で外部社会に与える影響②投資家によってもたらされるもの（投資家の「意図」と「貢献」からなる「投資家インパクト」）の二つのレベルのインパクトがあります。日本におけるインパクト投資は一般的に①しか議論されていませんが、グローバルにインパクト投資と言う場合、投資家の投資や支援がなければ生み出されなかったであろう財務的・社会的価値を投資家が特定できることが要求されます。

インパクト投資と ESG 投資は、どちらも経済的利益を生み出しながら環境と社会に貢献することが目指されます。しかし、インパクト投資は、社会または環境に対する測定可能なプラスの成果を生み出すことを評価しますが、ESG 投資は、環境、社会、ガバナンス (ESG) のリスクとメリットに対する企業の全体的なアプローチを評価するという点で違いがあります。